



特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム

Human Security Forum (HSF)

2018年度活動報告書

2019年5月

目次

I はじめに	3
II 2018 年度活動報告	4
1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト	4
2. 各種連携、教育プロジェクト	5
3. ANRIP (Asian Network for Refugees and International Protection)	5
4. 立正佼成会一食平和助成基金の助成事業	6
5. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト	7

I はじめに

東日本大震災が起こった年、2011年に発足した「人間の安全保障」フォーラム（HSF）は、設立9年目を迎えました。昨年度は、内尾太一事務局長の下、組織の若返りを図りつつ、「人間の安全保障」プロジェクトとして、2017年夏から行っている群馬県館林市のムスリムコミュニティの子どもたちへの学習支援を継続しました。また、12月に日本ユニセフ協会と共催で行った人間の安全保障指数発表記念シンポジウムにおいては、特別顧問の高須幸雄さんが、「SDGsと日本：日本の人間の安全保障指標―誰も取り残さない社会を目指して」という基調講演を行いました。さらに、会員名簿担当の三竹真知子理事のご尽力により会員の把握と会費収入の確保につとめ、組織基盤の立て直しを図りました。昨年度の個々のプロジェクトに関する活動報告については、担当理事による記述をご覧ください。最後になりましたが、わたしは2012年から7年間つとめた理事長職を退き、高須さんにバトンタッチしました。高須さんは初代理事長も務めている方なので、HSF創設時の初心に戻りつつも、令和の時代の新しいHSFの発展のためにご尽力願えれば幸いです。

2019年5月

理事長 山下晋司

II 2018 年度活動報告

1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト

内尾太一 常務理事

宮下大夢 理事

山崎真帆 理事

東日本大震災の被災地域において展開した学習支援活動の経験・知見を活かし、現代日本における「教育と人間の安全保障」を主題とするプロジェクトを計画・実施した。

具体的には、群馬県館林市に暮らしているムスリムの子どもたち（未就学児から中学生）を対象とした学習支援活動を、2017年7月より継続的に行ってきた。前年度から引き続き市内の六郷公民館において、午前10時から12時まで隔週（第2、第4）土曜日に勉強会を開催し、各回10名程度の子供たちが参加した。

前年度同様各回1、2名のHSFスタッフが現地に赴き活動に従事してきたが、2018年度は積極的に学習支援ボランティアを受け入れた。上半期は、主に都内の大学に通う学部生が活動に参加した。一方下半期については、三竹真知子理事の紹介を通じて、館林市に隣接する板倉町にキャンパスを持つ東洋大学と連携し、同学の学生ボランティアを受け入れたり、原若葉理事の弁護士ネットワークを活かして館林市民からもボランティア希望者を受け入れたりして、「地域密着型」の支援体制構築に力を入れた。

一方、継続的な活動を通し、保護者や六郷公民館職員との信頼関係も深まりつつある。2018年度、HSFは同館の定期利用団体として登録された。同館は毎年11月上旬に「六郷公民館まつり」を開催しているが、2018年度は同館職員より声がかかり、本プロジェクトも第37回公民館まつり（11月10、11日）に出店・出品側として参加することができた。保護者・子どもが店頭立ち伝統的な料理やお菓子を地域住民に振舞うなどし、多文化共生のための取り組みとの結びつきも見えつつある。よりよいプロジェクトのあり方を模索しながら、この活動を2019年度も継続していく。

2. 各種連携、教育プロジェクト

佐藤安信 副理事長

- ・ 2018年11月26日 カンボジアにおける人間の安全保障の今日的課題(スタディツアー報告会)
- ・ 科学研究費補助金による各種研究会の共催
- ・ CDR, ANRIP との連携による難民の国際的保護活動
以下のまなび旅を通じてミャンマー難民支援のための調査をした。
- ・ CDR、難民政策フォーラムの活動

3. ANRIP (Asian Network for Refugees and International Protection)

佐藤安信 副理事長

- ・ 11月25-27日に香港で開催されたアジアプロボノ会議でANRIP会議を開催、同28日に、Hong Kong City University Law School で開催されたビジネスと人権にかかるアジアネットワーク円卓会議を共催した。
- ・ 11月1日にプノンペンで開催された平和構築25周年記念セミナーを共催した。

4. 立正佼成会一食平和助成基金の助成事業

佐藤安信 副理事長

- ・ ミャンマーのカレン難民帰還の支援のためのフィージビリティ調査
- ・ 8月7-15日にタイ国境のカレンなどの少数民族難民キャンプでの聞き取り調査を、まなび旅に参加した学生とともに実施した。
- ・ カンボジアの平和構築の成果の調査
- ・ 11月1日の上記のプノンペンでの会議後、シムリアップで開催されたローエーシアの年次大会にまなび旅に参加した学生とともに、参加し、カンボジアの平和構築の実情を聞き取り調査した。
- ・ 上記の11月25-28日の香港におけるアジアプロボノ会議と円卓会議に学生らを連れて参加した。

5. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト

高須幸雄 理事

SDGs の理念は、2030 年までに「誰も置き去りにしない社会」を達成することであるが、日本では、子どもの貧困、いじめ、障害者、LGBT、若者の貧困・引きこもり、高齢者の孤立、難民など残された課題あるいは新しく浮上した課題もあり、すべての人々の厚生がみたされ、その尊厳が尊重されているわけではない。このような日本国内に存在する貧困、格差、社会的排除、違いの実態を、人間の安全保障の視点から、人間安全保障指標として地域別に可視化することによって、今後、どこに重点に置いて取り組みを強化すべきかを浮き彫りにするプロジェクトを 2018 年から開始した。

このために、HSF の有志メンバーを中心に、各分野の若手研究者、実践活動を行う NPO や財団、団体からの 20 名ほどのメンバーによってプロジェクトチームを結成し、ほぼ 1 年をかけて予定通り「日本の人間の安全保障指標」を作成し、2018 年 12 月 15 日、東京で、HSF と日本ユニセフ協会の共催の「日本の人間の安全保障指標発表記念シンポジウム」を開催した。また 2019 年 3 月 15 日、JICA 研究所でのシンポジウム「SDDs と日本」で、この指標をもとに議論を行った。